

スターバックス・コーポ レーション サステナビリティ債

フレームワークの概要とサステナリティクスに
よるセカンドオピニオン

2017年3月



www.sustainalytics.com

Trisha Taneja (トロント)

Advisor, Advisory Services

trisha.taneja@sustainalytics.com

(+1) 647 317 3695

Charlotte Peyraud (ニューヨーク)

Senior Advisor, Institutional Relations

charlotte.peyraud@sustainalytics.com

(+1) 646 518 0184

James Hawrylak (東京)

Director, Institutional Relations

james.hawrylak@sustainalytics.com

(+81) 3 4589 4886

目次

フレームワークの概要とサステナリティクスによるセカンドオピニオン	1
1. はじめに	3
2. 発行体概要	3
3. フレームワークの概要	4
3.1 調達資金の使途	4
3.2 プロジェクトの評価および選定プロセス	6
3.3 調達資金の管理	7
3.4 レポーティング	7
4. サステナリティクスのオピニオン	8
セクション 1：発行体のサステナビリティへの貢献実績	8
セクション 2：調達資金の使途のインパクト	10
結論	13
参考資料	14
参考資料 1：スターバックスの ESG に対するサステナリティクスの評価	14
参考資料 2：C.A.F.E.プラクティス	14
参考資料 3：グリーンボンド/グリーンボンド・プログラム 外部機関レビューフォーム	17
サステナリティクスについて	25

1. はじめに

スターバックス・コーポレーション（スターバックス）は、コーヒー豆サプライチェーン・マネジメントを対象とする同社のサステナビリティ・プログラムの推進に焦点を当てたサステナビリティ債（ユーロ円）を発行する予定です。スターバックスはサステナリティクスとの間で、2016年グリーンボンド原則と2016年ソーシャルボンドガイダンスに準じたフレームワークの策定と、枠組みのサステナビリティ側面の認証にかかるオピニオンを提供する委託契約を締結しています。サステナリティクスはこの契約の一環として、関連する公表ドキュメントと社内ドキュメントを審査しています。サステナリティクスはさらに、スターバックスのサステナビリティ債が同社の事業戦略、調達資金の計画的な利用、予想されるプラスのインパクトに関する主要業績評価指標（KPI）の開示と整合したものであることを理解するため、スターバックスの世界的なコーヒー豆調達ネットワーク、CSR（企業の社会的責任）、パブリックポリシーの各チームのメンバーとも議論しています。このドキュメントは、フレームワークの概要（スターバックスのサステナビリティ債のフレームワークの概要）、およびサステナリティクスの意見（フレームワークに関する意見）の2つのセクションで構成されています。

2. 発行体概要

スターバックスはスペシャルティコーヒーの焙煎、マーケティング、リテール事業を世界的に展開する企業であり、1971年に設立され、米国ワシントン州シアトルに本社を置いています。同社はボリュームの点で世界第4位の規模を持つコーヒー・メーカーであり、世界におけるコーヒー豆調達量の約3%に責任を負っています。スターバックスは世界75カ国以上で1日に数百万人のお客様の需要に応じており、2017年第1四半期時点で、スターバックスは全世界で2万4,000店以上のコーヒー店を運営しています。

スターバックスは、同社がコーヒー・サプライチェーンに大きな影響力を有していることを踏まえ、「生産者とともにつくるコーヒーの未来」に焦点を当てた戦略を実行しており、コーヒー生産者とその地域社会に投資しています。スターバックスは2004年、環境NGO（非政府組織）のコンサベーション・インターナショナルと協力してコーヒー豆に関する倫理的調達プログラム「Coffee and Farmer Equity (C.A.F.E.) プラクティス」を策定しました。C.A.F.E.プラクティスでは品質、経済、社会、環境の面で達成すべき実績に関する基準が設定されており、環境に配慮したコーヒー豆栽培方法を支援し、最低賃金と公正な労働環境を確かなものとし、経済的な透

明性の担保と資源管理を提唱しています（C.A.F.E.プラクティスに関する詳細は参考資料2をご覧ください）。

スターバックスは持続可能なコーヒー豆の調達をさらに推進するため、業界の様々な利害関係者とも協力関係を結んでいます¹。さらに同社は、コーヒー生産地においてファーマーサポートセンター、生産者向け融資、地域社会への投資を行い、それを通じてコーヒー豆サプライチェーンにおけるその他の課題にも対処しています。スターバックスの目的は、持続可能な調達に焦点を当てたサステナビリティ債の発行により、世界のコーヒー豆サプライチェーンにプラスの社会的・環境的インパクトを与える取り組みの資金を調達することです。

3. フレームワークの概要

このサステナビリティ債では、2016年グリーンボンド原則の4つの柱に準じ、2016年版ソーシャルボンドガイダンスに則ったフレームワークを策定しています。スターバックスは、サステナビリティ債を発行することで、コーヒー豆生産地域における社会経済的地位の向上および環境の持続可能性を促進することを目的とするプロジェクトの資金調達を行う考えです。次のセクションでは、調達した資金の使途、プロジェクト選定プロセス、調達資金の管理、レポートリングなど、スターバックスのサステナビリティ債のフレームワークの概要を説明します。

3.1 調達資金の使途

サステナビリティ債で調達された資金は、以下の適格クライテリアのいずれかを満たすスターバックスの新規プロジェクトのリファイナンスおよび資金調達に充当される予定です。

3.1.1 適格クライテリア

プロジェクトがサステナビリティ債による資金調達の対象となるためには、以下に挙げる企業活動の少なくとも1つに関与していなければなりません。

1. **C.A.F.E.プラクティスに準拠していることを第三者機関が検証したコーヒー豆の購入。持続可能なコーヒー豆の購入には、コーヒー豆の輸送と貯蔵に関連する支出も含まれています。**

¹ スターバックス：2015年12月1日付プレスリリース、<https://news.starbucks.com/news/making-coffee-the-worlds-first-sustainably-sourcedagriculture-product>

背景：前述のように、スターバックスは独自の倫理的調達プログラムである C.A.F.E.プラクティスを策定し、コーヒー豆生産を経済、社会、環境の観点から測定・監視しています。2015 年には、取り扱うコーヒー豆の 99%を倫理的に調達するという目標を達成しました。倫理的に調達されたコーヒー豆とは、第三者機関による監査を受け、同社の C.A.F.E.プラクティスまたは国際フェアトレード認証制度の基準を順守していることが検証されたコーヒー豆のことです²。

調達資金の用途：サステナビリティ債で調達された資金は、第三者機関によって C.A.F.E.プラクティスの順守が検証されたサプライヤーからのコーヒー豆の購入と、それに関連する輸送と貯蔵への支出に充当される予定です。(詳細は、参考資料 2 をご参照)

2. 生産者支援センターおよび農業研究開発センターの設立と運営に関連する支出

背景：スターバックスは、生産者によるC.A.F.E.プラクティスの実践を支援し、生産者を同社のサプライチェーンに参加させるため、コスタリカ、ルワンダ、タンザニア、エチオピア、コロンビア、グアテマラ、中国、メキシコ、インドネシアで9カ所の生産者支援センターを運営しています。これらのセンターは、農学、持続可能性、品質の専門家を雇用しており、こうした専門家が生産者（スターバックスのサプライチェーンに属していない生産者も含まれます）を対象に、栽培に関連するコストの削減、生産量の増加と品質の向上などのコーヒー豆栽培技術を指導しています。さらに、土壌管理、穀物の生産と製粉プロセス、害虫・病気対策などに関する教育も行っています。

スターバックスは 2013 年、コスタリカの生産者支援センターの近くにあるハシエンダ・アルサシアというコーヒー農園を買収しました。このコーヒー農園は体験農場および誰でも参加できる農業研究開発センターとして使用されており、回復力に富むコーヒー豆サプライチェーンの構築の面で生産者支援センターの活動に寄与することを目的としています。また、同コーヒー農園は将来的にコーヒーの新品種の開発に取り組み、その成果をコーヒー豆産業全体で共有する計画です。

調達資金の用途：サステナビリティ債で調達された資金は、現在の生産者支援センターの設備投資と労務費、および近い将来に計画される新しい生産者支援センターの開設に充当される予

² スターバックス：2015 年 Global Responsibility Report,

<https://globalassets.starbucks.com/assets/ee8121c1a6554399b554d126228d52ed.pdf>

定です。生産者支援センターの目的は、サプライヤーと生産者の C.A.F.E.プラクティス実践をサポートすることです。

3. スターバックスの 5,000 万ドルのグローバル農業生産者基金を通じたコーヒー豆生産者への融資

背景：スターバックスは 2015 年、非営利融資団体のルート・キャピタルやフェアトレード・アクセス・ファンド、その他のサプライチェーン内のパートナーと共同で、コーヒー生産者を対象とする 5,000 万ドルの融資枠を設定しました³。スターバックスはグローバル農業生産者基金を通じて、ペルー、ニカラグア、ホンジュラス、グアテマラ、ルワンダ、タンザニア、コンゴ、インドネシアなど 13 か国のコーヒー生産者に（スターバックスのサプライヤーではない生産者に対しても）妥当な水準の金利と返済期間で融資を提供しています。2017 年 1 月の時点では、同社は約 4 万人の生産者にインパクトを与え、合計で約 2,620 万ドルの融資を実行または契約しました。

調達資金の使途：サステナビリティ債で調達された資金は、コーヒー豆生産者への直接的な新規融資および借換融資、および貿易金融のほかに災害復旧とインフラ改善にも投資する非営利融資団体を通じた間接的な新規融資および借換融資に充当される予定です。

3.2 プロジェクトの評価および選定プロセス

スターバックスは同社のグローバル・コーヒー・チームに次の役割を担う数名のメンバーを指名しています。

- プロジェクトの適格性の評価と判断
- 調達資金の適格プロジェクトへの充当の推薦

スターバックスのグローバル・コーヒー・チームは C.A.F.E.プラクティスの対象プログラムにおける購買履歴を管理し、生産者支援センターのネットワークを運営し、生産者への融資を管理します。さらにグローバル・コーヒー・チームはこうしたプロジェクトへの調達資金の充当を財務部門に推薦します。推薦は、コーヒー豆の購買は週次ベースで、グローバル農業生産者基金を通じた融資は月次ベースで、農学センターのサポートは年次ベースで行われます。グローバル・コーヒー・チームによる融資関連の推薦はスターバックスの最高財務責任者（CFO）の

³ スターバックス：2015年6月22日付プレスリリース、<https://news.starbucks.com/news/starbucks-more-than-doubles-global-farmer-loan-commitment>

承認が必要ですが、それ以外の充当に関する推薦は財務チームが即座に承認します。財務チームはプロジェクトへの資金の充当状況を追跡管理するとともに、プロジェクト、プロジェクトの実施国、充当された資金額に関する簡潔な報告書を定期的に作成します。

3.3 調達資金の管理

サステナビリティ債で調達された資金の充当と管理はスターバックスの財務部門が行います。財務部門はすべての適格プロジェクト・カテゴリーの予算と実際の支出を四半期毎に追跡管理します。サステナビリティ債で調達された資金の充当が決定されるまでの間は、同社が資金と等しい額を現金、現金等価物、または国債で一時的に投資します。サステナビリティ債の元本と金利の支払いは同社の一般資金から行われ、支払額が適格プロジェクトの実績に直接的に左右されることはありません。

スターバックスでは、サステナビリティ債で調達された資金の大半は発行から 2 年以内に使用されると予想しています。

3.4 レポーティング

資金充当状況レポーティング

サステナビリティ債の償還期間を通じて、適格クライテリアに適合するプロジェクトに調達資金の全額が充当されるまでの間、スターバックスは調達資金の充当状況を、機密性の考慮の対象事項、サステナビリティ債で資金を調達した選定プロジェクトの追加的な説明を含め、毎年更新して公表することを約束します。毎年の充当状況はスターバックスのウェブサイト (www.starbucks.com)、および毎年発行するスターバックス・グローバル・レスポンシビリティ・レポートでも公表します。これらのレポートでは次の内容を記載する予定です。

- サステナビリティ債の発行によって調達された資金の純額が承認された適格プロジェクトに充当されたことを確認する経営陣の言明
- 経営陣の言明が米国公認会計士協会が策定した認証基準に従って検証された旨を記載した米国公開会社社会計監視委員会に登録している全国的に知名度のある企業のレポート

このサステナビリティ債の発行から 1 年後に充当状況に関するレポートを発行する予定です。

インパクト・レポーティング

スターバックスは充当状況のレポーティングに加え、サステナビリティ債で調達された資金が充当されたプロジェクトの環境的または社会的インパクトを可能な限り開示します。具体的には、サステナビリティ債プロジェクトの全体的な状況を下記の主要業績評価指標（KPI）に基づいて報告する予定です。

- **検証されたコーヒー豆購入量**：第三者機関がC.A.F.E.プラクティスに準じて検証したコーヒー豆購入量、および検証されたコーヒー豆購入量が会社全体のコーヒー豆購入量に占める割合
- **新規サプライヤーの数**：C.A.F.E.プラクティスに準じて検証された報告年度における新規サプライヤーの数
- **大陸別コーヒー調達量**：C.A.F.E.プラクティスに準じて検証されたコーヒー調達量の大陸別の内訳
- **融資実行額**：グローバル農業生産者基金を通じて実施された融資額（5,000万ドルの融資枠に対する進捗状況も含む）
- **農学センターの開設・支援状況**：1年間に開設された生産者支援センターの数、および運営を継続している生産者支援センターの数

スターバックスは最終的に、生産者がC.A.F.E.プラクティスに関与するきっかけを与えたことでコーヒー豆産業の持続可能性にどのようなプラスのインパクトを与えたかに関する報告書を公表する予定です。この報告書にはケーススタディを掲載する予定です。

4 サステナリティクスのオピニオン

セクション1：発行体のサステナビリティへの貢献実績

債券による調達資金がスターバックスのサステナビリティ目標にもたらした貢献

2015年には、スターバックスが調達した5億5,100万ポンドのコーヒー豆の99%が「Coffee and Farmer Equity (C.A.F.E.) プラクティス」、国際フェアトレード認証制度、または他の外部機関による認証制度を通じて倫理的に調達されました。同社は調達基盤を拡大する一方で、（C.A.F.E.プラクティスの基準に従って）倫理的に調達するコーヒー豆の目標を前年度比で徐々に引き上げ、2015年に目標の99%を達成しました⁴。また、スターバックスは生産者に提供する

⁴ サステナリティクス ESG リサーチ; <https://www.starbucks.com/responsibility/global-report>

融資総額の毎年の引き上げ目標も設定しており、2015年には1,760万ドルの資金を提供して以降、パートナーと協働しながら2016年には275万ドルを追加で供給し、2,000万ドルの目標を超過して達成しました⁵。サステナリティクスは、スターバックスのサステナビリティ債フレームワークが同社の企業サステナビリティ戦略とその目標に合致しており、スターバックスがサステナビリティ債を発行する体制は整っているとのオピニオンを表明します。

サプライチェーンにおける環境リスクと社会的リスクの軽減に資する体制

開発途上国からのコーヒー豆の調達に関連する共通したリスクには、児童労働、強制労働、危険な作業環境、最低賃金を下回る報酬といった社会的リスクが含まれます。また、コーヒー豆の調達は、水の非効率な使用、農薬の使用を通じた土壌の劣化、森林破壊といった特定の環境的リスクも伴います。サステナリティクスは、1) スターバックスの社会的サプライチェーン・マネジメント・システムの強固さ、2) 第三者によって認証されたコーヒー豆の調達を理由に、スターバックスがこれら2種類のリスクを緩和する体制を整えています。

強固な社会的サプライチェーン・マネジメント・システム

スターバックスの社会的サプライチェーン基準は健康、安全性、最低生活水準、最長労働時間、結社の自由、児童労働、差別撤廃、強制労働、体罰に対処しており、極めて強固なものとなっています。さらに、スターバックスは第三者認証機関のSCSグローバルサービスと契約し、1) 監査のフレームワークと手法、および2) サプライチェーンの基準に照らしてサプライヤーを評価する第三者認証機関のネットワークの統括を委託しています。また、基準に対する不履行があった場合、スターバックスはサプライヤーと協力して是正に当たります。基準を順守していないサプライヤー、スターバックスと協力しないサプライヤー、不履行を是正しない第三者機関との契約や取引関係は打ち切られることがあります。また、スターバックスは基準を順守していない生産地の使用を停止する場合があります。サステナリティクスは、1) スターバックスの社会的サプライチェーン基準の幅の広さ、2) 信頼できる第三者機関による監査手法の監視・検証、3) 不履行に対する是正措置の適用、4) 基準を順守しない生産者の使用を停止する方針を踏まえ、スターバックスの社会的サプライチェーン・マネジメントが持続可能なサプライチェーン・マネジメントのベストプラクティスと整合しているとのオピニオンを表明します。

コーヒー豆の調達に伴う環境的リスクの緩和における認証の重要性

⁵ スターバックスローンポートフォリオ; <https://www.starbucks.com/responsibility/global-report>

スターバックスの C.A.F.E.プラクティスは、同社がコンサベーション・インターナショナルと共同で策定した持続可能な調達プログラムのガイドラインであり、コーヒー豆の品質を確保しながら社会、経済、環境に関する基準を引き上げることを目的としています。特に、C.A.F.E.プラクティスが設定している環境基準の範囲は包括的であり、持続不可能なコーヒー豆栽培慣行に伴う環境リスクに直接対処するものとなっています。C.A.F.E.プラクティスの環境基準には、水質汚染の防止、水資源の効率的な利用、土壌侵食管理、コーヒー・シェード・キャノピー（樹木を利用したコーヒーの日陰栽培）を通じた森林破壊防止、害虫・病気対策などが含まれます。サステナリティクスは、1) C.A.F.E.の環境基準の包括範囲、2) より高いスコアを記録したコーヒー生産者にプレミアムを提供する評価制度の実施（従って、より良いパフォーマンスを促進）、3) 一連の最低基準（ゼロ・トレランス指標として知られている）の順守という C.A.F.E.の生産者向けの要求は、特定された環境リスクを緩和する強力な手段の表れであるとのオピニオンを表明します。

サステナリティクスは、サステナリティクス C.A.F.E.プラクティスに対する批判があることを認識しています。サステナリティクスはスターバックスの C.A.F.E.プラクティスを評価した上で、コーヒー生産に関する環境・社会リスクを認識しているものの、C.A.F.E.スタンダードはサステイナブル・サプライチェーン・マネジメントにおける主要なプラクティスに準じていると判断しました。

セクション 2：調達資金の使途のインパクト

サステナリティクスは、資金使途が運転資金であることを認識しています。サステナリティクスは、スターバックスのコーヒー・サプライチェーンにおける生産者の、進化する持続可能な農業プラクティスや、社会経済的進歩によって、調達資金が環境・社会に対して明確なインパクトを与えるという意見です。

コーヒー生産者に対する融資のインパクト

世界の約 2,000 万人の地方貧困層は生計をコーヒー生産に依存しています⁶。コーヒー生産者である小農地保有者への融資は、彼らのファイナンスへのアクセスを増やすことによって生活水準を向上させる点において、重要な役割を果たします。典型的には、小規模コーヒー生産者は、(i) 金融知識の欠如と曖昧な財産権によって、耕作地を担保設定出来ない点、(ii) 発展途上国

⁶ 国際連合食糧農業機関 (2017 年) 2017 年 1 月 24 日付 <http://www.fao.org/sustainability/en/>

では、設備投資に適した長期クレジットをはじめとしたクレジットコストが高い点、関してファイナンスへのアクセスを欠いています。クレジットへのアクセスが無い中では、たいていの小農地保有者は次善の提供・手法に限定されてしまい、低生産性によって彼らの生活が危険に晒されてしまいます⁷。一般的に、小農地保有者へのファイナンス市場は初期段階かつ未発達、分断されており資金不足となっています。市場に関する大まかな見立てでは、小農地保有者のファイナンス需要は 4,500 億ドルにも上り、その大半が満たされていない状況となっています⁸。

スターバックスの融資基準によると、コーヒー生産者向け融資の 55%は、所有面積 12 ヘクタール未満とスターバックスが定めている小規模農家に行われているとされています。更に、スターバックスは上限金利を年率 9%に設定しています。これは、店舗展開している各国におけるビジネスローンよりも低い水準となっています⁹。スターバックスのグローバル農業生産者基金からの融資を確実に行うことによって、またその大半がファイナンスへのアクセスを必要としている人に対して行われることによって、スターバックスはコーヒー生産者の生活水準を高めることを通じて、目指す社会インパクトを与えています。

第三者機関認証のコーヒーを購入することのインパクト

C.A.F.E.プラクティスや他の信頼の高い第三者基準に認証されたコーヒーを購入することによって、スターバックスは環境リスクを低減するだけでなく、より持続可能な農業技術の利用を促進しています。このような環境的に持続可能な農業プラクティスはたいてい、穀物生産高や農家の生計にもプラスとなっています。例えば、木陰でのコーヒー生産は森林破壊という環境リスクを低減しますが、同時により良好な土壌生産性にも繋がり、生物多様性をサポートし、コーヒーの品質向上に貢献します。

全体的に見れば、第三者機関認証のコーヒーを生産することでスターバックスは、生産者の生活水準も向上させる環境的に影響のある農業プラクティスの実践を促すことによって、環境・社会的インパクトを与えています。

⁷ ダルバーク、シティ基金及びスコール基金 (2012 年). 小規模農家ファイナンスを促進. ダルバークグローバル開発アドバイザー, ニューヨーク [オンライン]. 2016 年 1 月 24 日付 http://www.newforesight.com/wp-content/uploads/2014/06/IFC-Report_here.pdf

⁸ ダルバーク、シティ基金及びスコール基金 (2012 年). 小規模農家ファイナンスを促進. ダルバークグローバル開発アドバイザー, ニューヨーク [オンライン]. 2016 年 1 月 24 日付 http://www.newforesight.com/wp-content/uploads/2014/06/IFC-Report_here.pdf

⁹ 世界銀行グループ: 2015 年貸出金利. 2017 年 1 月 24 日付 <http://data.worldbank.org/indicator/FR.INR.LEND?view=map>

国際連合の持続可能な開発目標との整合性

持続可能な開発目標は、2015年9月に複数関係者のパートナーシップを通じて設定され、2030年までに持続可能な開発を達成するためのアジェンダを規定しています。これらの目標は、2015年までの期間限定となっているミレニアム開発目標へのネクスト・ステップと幅広く認識されています。ミレニアム開発目標とは異なり、持続可能な開発目標は先進国・途上国の双方におけるグローバルな機会の不平等・不均衡を強調しています。特に持続可能な開発目標2の‘ゼロハンガー’は、“小規模食糧生産者の農業生産性と所得を2倍にする”という目標を設定しています¹⁰。

世界の人口増加は、サハラ以南のアフリカ、南アジア、東南アジア、ラテンアメリカの一部と言った世界で最も食料不安の大きい地域に集中すると見込まれています¹¹。これらの地域での農業は大半が、保有土地約1ヘクタールと定義される小規模農家によって行われています。これらの農家の生産性を向上することは、将来の食料需要を満たし、国際連合の持続可能な開発目標に取り組む際に重要となります¹²。小規模農家に対して技術支援や融資を提供することや、小規模農家からの購入を通じて、スターバックスのサステナビリティ債フレームワークは、上述の持続可能な開発目標2に直接貢献しています。

2016年グリーンボンド原則および2016年ソーシャル・ボンド・ガイダンスとの整合性

サステナリティクスは、スターバックスのサステナビリティ債が、2016年グリーンボンド原則のガイダンスに則っており、その4つの柱に準じているとの見解です。詳細につきましては、参考資料3をご参照下さい。更に、最も資金需要が有る農家へのスターバックスからの融資は、コーヒー生産者の社会経済的権限を高めることによって、社会的影響を創造します。サステナリティクスは、スターバックスのサステナビリティ債は、2016年ソーシャル・ボンド・ガイダンスに準じているとの見解です。

¹⁰ 国際連合の持続可能な開発目標: <https://sustainabledevelopment.un.org/sdg2>

¹¹ 2016年 Access to Seeds インデックス. 2017年1月24日付 <http://www.accesstoseeds.org/downloads/index-report-2016.pdf>

¹² 2016年 Access to Seeds インデックス. 2017年1月24日付 <http://www.accesstoseeds.org/downloads/index-report-2016.pdf>

結論

スターバックスのサステナビリティ債フレームワークは明確で、サステナビリティ債投資の資金使途と結果を明瞭にしています。スターバックス債は スターバックスのコーヒー・サプライチェーンにおける農家の、持続可能な農業プラクティスや社会経済的発展を促進しているという、明らかな影響を与えています。また、スターバックスのサステナビリティ債は、2016年グリーンボンド原則の4つの柱および2016年ソーシャル・ボンド・ガイダンスに準じています。サステナリティクスは、スターバックスのサステナビリティ債は、信用力が高く安全性の高いものと見ております。

参考資料

参考資料 1：スターバックスの ESG に対するサステナリティクスの評価

以下のアセスメントは、ESG 調査に関する結果を提供するサステナリティクスのオンライン・ポータルによるものです。サステナリティクスは、包括的な ESG スコアの点についてスターバックスを「リーダー」であると評価しています。スターバックスは消費者向けサービス産業に属します。

全体的なパフォーマンス



参考資料 2：C.A.F.E. プラクティス

C.A.F.E. プラクティスは約 200 の指標から成るスコアボード（共通のスコアボードと小農地生産者向けにカスタム化されたスコアボードがあり、いずれも公表されています）として示され、スターバックスはこうしたスコアボードの使用を業界の他の企業に働き掛けています¹³。SCS グローバルサービス（環境、サステナビリティ、食品品質の第三者認証機関）が統括した検証プロセスが完了すると、コーヒー生産者は以下の地位のいずれかにランク付けされます。

- **戦略的サプライヤー**：合計スコアの 80%以上を獲得し、ゼロ・トレランス指標に適合しているサプライヤーです。戦略的サプライヤーに認定された初年度は、グリーン調達されたすべてのコーヒー豆について、1 ポンド当たり 0.05 ドルのプレミアムを受け取る資格が与えられ、プラクティスの実践状況が改善された場合はその資格が 1 年間延長されます。収穫期に監査を受け、組織的な変更がなければ、プレミアムを 4 年間受け取る資格が与えられます。

¹³ C.A.F.E. プラクティスの完全なスコアカードは <https://www.scsglobalservices.com/starbucks-cafe-practices> で見るすることができます

- **推奨サプライヤー**：合計スコアの 60%以上を獲得し、ゼロ・トレランス指標に適合しているサプライヤーです。収穫期に監査を受け、組織的な変更がなければ、プレミアムを 3 年間受け取る資格が与えられます。
- **検証されたサプライヤー**：獲得したスコアは合計スコアの 60%未満で、ゼロ・トレランス指標に適合しているサプライヤーです。収穫期に監査を受け、組織的な変更がなければ、プレミアムを 2 年間受け取る資格が与えられます。
- **C.A.F.E.プラクティスの指標は交換可能であり、ステータスはサプライヤーの合計スコアにもとづいています。これは、サプライヤーは異なる指標を満たすことで推奨サプライヤー・あるいは戦略的サプライヤーのステータスにつく可能性があることを意味します。C.A.F.E.プラクティスに検証されたゼロ・トレランス指標は、ベストプラクティスにもまして最低限の期待水準です。たとえば、環境的側面において、スターバックスはサプライヤーに対し、世界保健機関にタイプ 1A あるいは 1B としてリストされている殺虫剤の不使用を求めています。社会的側面においては、賃金・福利に関するゼロ・トレランス指標は農場経営者に対して、すべての農場労働者に少なくとも最低賃金を支払うよう求めています。多数の国において、最低賃金はいまだに生活賃金を下回っているため、農場経営者に少なくとも生活賃金を支払うことをベストプラクティスとして求めている。しかしながら C.A.F.E.は、最低賃金¹⁴以上の賃金を支払うサプライヤーに対して追加でポイントを充当することにより、少なくとも最低賃金以上の賃金を推奨しています。しかし、C.A.F.E.プラクティスの基準に対するサプライヤーのパフォーマンスを継続的に高めるために、これらの制限はスターバックスの約束により設定されています。サプライヤーが彼らのパフォーマンスを向上させる動機を高めるためにスターバックスは、C.A.F.E.プラクティスのスコアカードについて- 戦略的サプライヤーにランク付けされた農家に対しては一度限りのプレミアムを支払います。**

¹⁴最小限の賃金は、最低賃金として法的に政府に定められています。生活賃金は適切な住居、食事と他の生活必需品を購入可能な収入です。

- サステナリティクスは、スターバックスがフェアトレードやレインフォレストアライアンス¹⁵のような他の産業界のスタンダードに依じるよりも、独自の倫理スタンダードを設けるという点において利害の対立が認められることから、C.A.F.E.プラクティスに対する批判があることを認識しています。しかし、同社は、C.A.F.E.プラクティスが策定された時点において、コーヒー農家のサステナビリティ、または小規模コーヒー農家に関する第三者のスタンダードは他に存在しなかったことを説明しています。さらに同社は、スコアカードと検証の過程、また健勝過程において監査・検査を行った第三者認証機関が関与したことを公開することを通じて、高い透明性を示しています。加えて、コンサベーション・インターナショナルは、C.A.F.E.プラクティスの成果について5年間にわたりインパクト調査を行い、情報を開示しています¹⁶。
- C.A.F.E.プラクティスの基準に合致したすべてのサプライヤーに対してでなく、戦略的サプライヤーに対してのみ一度きりのプレミアムを支払う点についても、スターバックスはまた批判を受けています。この批判に対して同社は、C.A.F.E.プラクティスは認定のスキームではなく、むしろ継続的な改善プログラムであることを強調します。農家がC.A.F.E.プラクティスにおいて重要だと一旦第三者機関に認められれば、スターバックスは彼らとともに推奨サプライヤーの基準に、最終的には戦略的サプライヤーにまでステータスの向上を目指します。サプライヤーは、実行する仕事計画を地域の農業サポートセンターに伝えること、また成果を報告することが期待されています。彼らはまた農業サポートセンターに対し、パフォーマンスを向上させるための更なる手助けを求めることもできます。サステナリティクスがレビューした国内の文書によると、戦略的・あるいは推奨されたサプライヤーが大多数であるのに対して、検証されたサプライヤーとしてランク付けされているのは少数となっています。さらに、戦略的サプライヤーのみがプレミアムを受け取る資格を得るものの、推奨されたサプライヤーと戦略的サプライヤーの両者が、優遇された契約条件を得ることができます。

¹⁵ Raluca Dragusanu, Daniele Giovannucci, Nathan Nunn によるフェアトレードの経済に関する、2016年4月22日における調査。
FY2014年において、スターバックスはフェアトレードコーヒーの世界最大の顧客です（およそ8.6%がスターバックスによるコーヒーの購入です）http://scholar.harvard.edu/files/rdragusanu/files/jep_firstdraft_sept10_2013.pdf

¹⁶ C.A.F.E.プラクティスによる調査、
www.conservation.org/publications/Documents/2011_2012_Starbucks_CAFE_Practices_Results_Assessment.pdf.

- 最終的に、上記の通り、C.A.F.E.プラクティスの基準はコーヒー農家の環境的・社会的関心に言及しており、持続可能なサプライチェーンマネジメントの重要なプラクティスに準じているとサステナリティクスは判断します。

参考資料3：グリーンボンド/グリーンボンド・プログラム 外部機関レビューフォーム

グリーンボンド/グリーンボンド・プログラム 外部機関によるレビュー・フォーム

セクション1 基本情報

発行体の名称：スターバックスコーポレーション

グリーンボンド ISIN コードまたはグリーンボンド発行体フレームワークの名称（該当する場合）：

レビュー機関の名称：サステナリティクス

このフォームの記入完了日：2016年1月26日

レビューの発行日：

セクション2 レビューの概要

レビューの範囲

以下の項目は、本レビューの範囲を要約するために使用または採用される可能性があります。

レビューでは次の要素を評価し、グリーンボンド・プログラムとの整合性を確認しました。

調達資金の用途

プロジェクトの評価および選定プロセス

調達資金の管理

レポーティング

レビュー機関の役割

コンサルティング（セカンドオピニオンを含む）

認証

検証

レーティング

その他（具体的に記入してください）

注）複数のレビューを実施する場合、または異なる外部機関がレビューを実施する場合は、レビュー毎に異なるフォームを作成してください。

レビューの概要またはレビュー全文へのリンク（該当する場合）

スターバックスのサステナビリティ債フレームワークと上記のセカンドオピニオンを参照して下さい。

セクション3 レビューの詳細

1. 調達資金の使途

サステナリティクスは、サステナビリティ債フレームワークの適格クライテリアに適合するプロジェクト活動への融資を通じ、スターバックスは環境的または社会的インパクトを与えているとのオピニオンを表明します。環境的インパクトは、環境に配慮した農業プラクティスに利用されることによりもたらされます。スターバックスの融資プログラムは、ターゲットとするコーヒー農家の社会経済的進歩によって社会的インパクトをもたらします。

これは、スターバックスが同社のサプライチェーンの農家に対してだけでなく、同社サプライチェーン外で農家に対しても技術面でのサポートと融資プログラムを提供しているという事実からも読み取られます。

サステナリティクスは、スターバックスの本サステナビリティ債の調達資金の使途は 2016 年グリーンボンド原則および 2016 年ソーシャル・ボンド・ガイダンスと整合しているとのオピニオンを表明します。

資金の用途のカテゴリー（分類は GBP に基づく）

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> 省エネルギー |
| <input type="checkbox"/> 汚染の予防と管理 | <input checked="" type="checkbox"/> 自然資源の持続可能な利用 |
| <input type="checkbox"/> 生物多様性保全（陸上および海洋） | <input type="checkbox"/> クリーンな輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 環境に配慮した製品、製造技術、製造工程 | <input checked="" type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）：
農業生産者の社会経済的な能力の向上
[目標とする社会的インパクト] |
| <input type="checkbox"/> 債券発行の時点では確認されていないが、将来的に GBP のカテゴリーまたは GBP のカテゴリーにないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | |

GBP のカテゴリーにない場合は、環境分類を記入してください（可能な場合）。

2. プロジェクトの評価と選定に関するプロセス

スターバックスは、プロジェクトの選定において、グローバル・コーヒー・チームと財務部門を含めた明確な判断プロセスを示しています。プロジェクトの評価と選定は、社会的または環境的目的を明確に考慮します。現在のスターバックスの長期間の適格プロジェクトは、調達資金の適格プロジェクトへの充当の推薦を担うグローバル・コーヒー・チームにより管理・運営がなされていることから、サステナリティクスは、プロジェクトと資産の選定プロセスは強固であり、選定されたプロジェクトは全ての表明されているクライテリアを満たすものであることを保証するとのオピニオンを表明します。

評価と選定

- グリーンボンドによる調達資金に適切なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている
- ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトが GBP のカテゴリーの範囲に適合していることが判断される
- プロジェクトの評価と選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている
- その他（具体的に記入してください）：

責任に関する情報

- 評価/選定のクライテリアについては外部機関による助言または検証が必要
- 組織内での評価
- その他（具体的に記入してください）：

3. 調達資金の管理

サステナビリティ債で調達された資金の充当と管理はスターバックスの財務部門が行います。財務部門はすべての適格プロジェクト・カテゴリーの予算と実際の支出を四半期毎に追跡管理します。サステナビリティ債で調達された資金の充当が決定されるまでの間は、同社が資金と等しい額を現金、現金等価物、または国債で一時的に投資します。これはマーケット・スタンダードと一致するものです。

調達資金の追跡管理

- 発行体はグリーンボンドで調達された資金を体系的な手法に基づいて区別または追跡管理している
- 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている
- その他（具体的に記入してください）：

その他の情報開示

- 将来の投資にのみ充当
- 現在と将来の投資に充当
- 個別の支出に充当
- 支出ポートフォリオに充当

- 未充当資金のポートフォリオを開示 その他（具体的に記入してください）：

4. レポーティング

スターバックスは充当状況のレポーティングに加え、サステナビリティ債で調達された資金が充当されたプロジェクトの環境的または社会的インパクトを毎年更新して公表します。スターバックスはまた、調達資金の充当に関して独立して監査しています。

同社が選定するインパクトの基準は、環境に配慮した農業プラクティスの促進と、コーヒー農家の社会経済的進歩に対する資金使途の影響を示します。スターバックスはまた、C.A.F.E.プラクティスに準じて検証された報告年度における新規サプライヤーの数を開示し、これは生産者のC.A.F.E.プラクティスへの関与の広がりを示します。充当状況とインパクトのレポートは、プロジェクト・ポートフォリオ単位で開示されます。レポートが公表されること、第三者機関により検証されること、適格クライテリアを明確に満たしていること、またインパクトのレポーティングを含むことから、スターバックスのサステナビリティ債のレポーティングプロセスは、透明性が高く、2016年グリーンボンド原則の目的と整合しています。

調達資金レポーティングの用途

- プロジェクト単位で記載 プロジェクト・ポートフォリオ単位で記載
- 個々の債券の情報源にリンクを張っている その他（具体的に記入してください）：

報告されている情報

- 充当額 投資額全体におけるグリーンボンドによる調達額の割合

その他（具体的に記入してください）：

頻度

- 毎年 半年毎

その他（具体的に記入してください）：

インパクト・レポーティング

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> プロジェクト単位で実施 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト・ポートフォリオ単位で実施 |
| <input type="checkbox"/> 個々の債券の情報源にリンクを張っている | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |

頻度

- | | |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 毎年 | <input type="checkbox"/> 半年毎 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： | |

報告された情報（予想または事後の報告）

- | | |
|--|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 温室効果ガス排出量の削減 | <input type="checkbox"/> 省エネルギー |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他の ESG 指標（具体的に記入してください）： | |

開示の方法

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に掲載 | <input type="checkbox"/> サステナビリティ・レポートに掲載 |
| <input type="checkbox"/> アドホックの報告書に掲載 | <input checked="" type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください）： |
| <input type="checkbox"/> レポーティングは審査済み（審査済みの場合は、どの部分が外部審査の対象であることを明示してください）： | |

参考情報へのリンク先の欄で報告書の名称と発行日を特定してください（該当する場合）。

参考情報へのリンク先（例えば、レビュー機関の審査手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク）

スターバックスのウェブサイト：www.starbucks.com
C.A.F.E.プラクティスのスコアカードの完全版：
<https://www.scsglobalservices.com/starbucks-cafe-practices> -

参照可能なその他の外部審査（該当する場合）

提供されているレビューの種類

- | | |
|---|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> コンサルティング（セカンドオピニオンを含む） | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証/監査 | <input type="checkbox"/> レーティング |

- その他（具体的に記入してください）：

レビュー機関

発行日

グリーンボンド・プログラムが定義するレビュー機関の役割について

- (i) コンサルタント・レビュー：発行体は、環境的な持続可能性や、グリーンボンド発行におけるその他の側面（発行体のグリーンボンド・フレームワークの策定/レビューなど）について、定評ある専門知識を備えたコンサルタントや専門機関から助言を求めることができます。「セカンドオピニオン」はこのカテゴリーに含まれます。
- (ii) 検証：発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンド・フレームワーク、または裏付けとなる資産について、資格要件を満たした当事者（監査人など）に独立した立場から検証を受けることができます。認証と異なり、検証では発行体が作成した内部基準や要件との整合性に焦点を当てることができます。裏付けとなる資産の環境的な持続可能性に関する側面の検証に外部のクライテリアを参照する場合があります。
- (iii) 認証：発行体は、発行するグリーンボンド、それに関連するグリーンボンド・フレームワーク、または調達資金の用途について、外部のグリーン評価基準に照らして認証を受けることができます。クライテリアは評価基準によって定義され、こうしたクライテリアとの整合性は、資格要件を満たした第三者機関/認証機関によって検証されます。
- (iv) レーティング：発行体は、発行するグリーンボンド、またはそれに関連するグリーンボンド・フレームワークのレーティングを資格要件を満たした第三者機関（専門的調査機関、格付け機関など）から取得することができます。グリーンボンドのレーティングは通常、個別の債券やグリーンボンド・フレームワーク/プログラムに適用されるため、発行体の ESG レーティングとは区別されます。

免責事項

無断複写・転載を禁じます。このセカンドパーティ・オピニオン（「オピニオン」）のいかなる部分も、事前の書面によるサステナリティクスからの許可なく複写、転載、公開することは許可されていません。

このオピニオンは、分析対象の債券が持続可能であり、責任を果たすとみなされる理由を説明するために作成されました。したがって、このオピニオンは情報提供のみを目的としており、サステナリティクスはこのオピニオンの内容に関するいかなる形の責任も、このオピニオンやそこで提供する情報の使用に起因する損害に関する責任も、認めることはありません。

このオピニオンはクライアントによって提供された情報に基づいて作成されていますので、サステナリティクスはこのオピニオンで提示された情報が完全または正確、あるいは最新であることを保証しません。

このオピニオンに記載されたいかなる内容も、投資可能な資産やポートフォリオへの投資または企業の参加の助言に関する表示、保証、表明、示唆とみなされるべきではありません。また、このオピニオンはいかなる場合も、債券の経済的パフォーマンスや信用力の評価と解釈され、みなされるべきではありません。また、このオピニオンは債券による調達資金の効果的な充実に焦点を当てたものではありません。

クライアントは、自らのコミットメントの順守、実行、モニタリングの認証および保証に関し、全責任を負います。

サステナリティクスについて

サステナリティクスは、ESG とコーポレート・ガバナンス、評価と分析による責任投資（RI）の発展と実行とともに世界中の投資家をサポートする独立系機関です。サステナリティクスは全国に 13 の事務所を有し、環境・社会・ガバナンス情報と調査を、投資プロセスに組み込む機関投資家のパートナーです。今日、サステナリティクスは 40 分野以上の専門知識を有する 170 名のアナリストを含めた 300 名以上の社員を擁します。IRRI の調査によると、サステナリティクスは 2012 年から 2014 年の 3 年連続で、最も優れた責任投資（RI）に関する独立系調査機関であると投資家により選出されました。また 2015 年には ESG とコーポレート・ガバナンスの両方に関する調査において上位 3 社に指定されました。サステナリティクスはまた、グローバルキャピタルから最も優れた持続可能性および責任投資（SRI）調査会社（グリーンボンド調査会社）に選ばれました。より詳しい情報に関しては www.sustainalytics.com をご参照ください。

Copyright © 2017 Sustainalytics. All rights reserved.

この出版物/レポートの知的所有権とこれに含まれる情報は、サステナリティクスとその供給者に属します。この出版物/レポートのいかなる部分も、書面によるサステナリティクスの許可なく複製、利用、配布、修正、公開することは認められていません。この出版物/レポートに記載されたいかなる内容も、投資可能な資産やポートフォリオへの投資または企業の参加の助言に関する表示、保証、表明、示唆とみなされるべきではありません。ここに掲載されている業績は過去のもので、過去の業績は将来の結果に対して信頼に足る指標では無く、この書面内の結果および情報は信用を意図したものではありません。特定の専門助言、特に金融助言の代替となるものでもありません。この出版物/レポートの元となる情報は、情報が発生した当時の状況を反映しています。これらの情報は、全部・一部分にかかわらず、第三者から提供されたものであり、従って継続的に修正される可能性が有ります。サステナリティクスは、情報活用時は最大限に配慮していますが、ここに含まれる情報が正確かつ完全で、情報から何ら権利が発生していないということを、保証することは出来ません。情報はそのままのものであり、従ってサステナリティクスは、誤り・省略が有った場合も責任を負いません。サステナリティクスとその供給者は、出版物/レポートやこれに含まれる情報の利用から生じる損害に対して、どのような形においても責任を認めることはありません。

サステナリティクス

info@sustainalytics.com

www.sustainalytics.com

